

平成 21 年度

小金井市

# 市民協働推進支援調査 報告書

小金井市市民部コミュニティ文化課

# 目 次

■ 1 調査の概要	1
1) 目的	1
2) 対象団体について	1
3) 調査のすすめ方	1
4) 調査の体制	1
5) 調査結果の概要	2
6) ヒアリング調査の概要	2
■ 2 アンケート調査結果の内容	3
1) 団体の概要、会員について	3
(1) 団体設立年	
(2) 法人格の有無について	
(3) 活動目的について	
(4) 会員数について	
(5) 年間予算について	
2) 団体の特徴、アピール	4
3) 団体の問題点、課題について	5
4) 「協働」という言葉について	6
5) これまでの「協働」の有無について	7
6) 協働の形について	7
7) 協働のきっかけについて	8
8) 協働してよかったこと	9
9) 協働してよくなかったこと	11
10) 今後の協働の希望について	13
11) 今後の協働の形について	14
12) 協働したくない理由について	15
13) 協働に向けての環境について	16
14) 協働したい団体、組織等について	17
15) 協働したい団体等の種類について	17
16) 取り組みたい内容について	18
17) 協働したいテーマ、課題の有無について	19
18) 協働したいテーマ等について	20
19) 市民協働支援センター準備室について	22
20) 市民協働支援センター準備室に求める機能等について	23
21) 自由記述からの抜粋	24

■ 3	ヒアリング調査	26
1)	ヒアリング調査先の選定	26
2)	ヒアリング調査の方法	27
3)	ヒアリング調査の結果	27
	(1) KOKO ぷらねっと	
	(2) ふじがね 夢工房	
	(3) NPO法人 地域の寄り合い所 また明日	
	(4) 翁味会	
	(5) NPO法人 黄金井倶楽部	
	(6) NPO法人 遊び・文化NPO 小金井こども劇場	
	(7) 小金井市環境市民会議	
	(8) 小金井市青年会議所	
	(9) 本町五丁目第3町会	
	(10) NPO法人 カッセKOGANEI	
■ 4	協働における現状と問題点	41
1)	現状、問題点について	41
2)	問題点の整理	42

# ■ 1 調査の概要

本事業は、ふるさと雇用再生特別基金事業である。

調査の概要を以下に整理する。

## 1) 目的

平成21年度協働推進支援調査委託は、市内のNPO法人等の市民活動団体等に対して、協働に関するアンケートやヒアリング調査を実施し、その課題等を把握し、市民に有益な協働事業の展開に資することを目的とする。

## 2) 対象団体について

調査対象団体については、市および社会福祉協議会が持つ市内で活動しているNPO法人、任意団体の一覧を統合、整理し、アンケート調査票の送付先一覧をまとめた。

## 3) 調査のすすめ方

本調査は、本年9月に開設した小金井市市民協働支援センター準備室（以下「準備室」という。）や、本市の協働の推進を牽引しているNPO法人連絡会と密接に連携しながら実施した。そのことにより、現在市民活動団体が抱えている課題等をより詳細に明らかにすることができ、それらをまとめて概要報告を作成した。

ふるさと雇用再生特別基金事業は、3ヵ年の継続事業で、本年度の調査報告を22年度に開催する本市の協働推進ワークショップ等を通じて、市民的共有と研究を行い、23年度はそれらをまとめ、市民協働推進に活用していく。

## 4) 調査の体制

市は、NPO法人ひ・ろ・こらぼと協働推進支援調査委託契約を締結し、綿密に協議しながら本調査を実施した。地域から雇用者を雇い入れ、本調査に役立つ情報を提供いただくとともに、スキル等の共有を図ることに配慮しながら作業を進めた。

### ○ふるさと雇用再生特別基金事業

地域の雇用失業情勢が厳しい中で、地域の実情や創意工夫に基づいて地域求職者等の雇用機会を創出する取組みを支援するため、都道府県に対して「ふるさと雇用再生特別交付金」を交付し、これに基づく基金を造成する（基金は平成23年度末まで）

- ・ 地方公共団体は、地域内でニーズがあり今後の地域の発展に資すると見込まれる事業のうち、その後の事業継続が見込まれる事業を計画し、民間企業等に事業委託を行う。（地域の当事者からなる地域基金事業協議会において事業選定等）
- ・ 民間企業等が求職者を新たに雇い入れることにより雇用の創出を図る。

## 5) 調査結果の概要

アンケート調査の概要を以下にまとめます。

- (1) アンケート実施期間：平成21年10月1日～11月15日
- (2) 調査対象：444団体（市内で活動するNPO法人、任意団体、自治会・町会等）
- (3) 調査方法：アンケート調査用紙（郵送）による回答方式
- (4) 回収数及び回収率：247団体（56.0%）

## 6) ヒアリング調査の概要

また、アンケート調査の回答、記述の中から、協働の推進に対して課題を認識し、さらに提案の可能性のある10団体を抽出し、ヒアリング調査を実施した。

## ■ 2 アンケート調査結果の内容

今回行ったアンケート調査の結果を、アンケート調査票の設問に従って整理する。

### 1) 団体の概要、会員について

回収されたアンケートの団体の概要は以下の通りである。

#### (1) 団体設立年

設立年(西暦)	団体数(総数:247)	構成比
～1960	25	10.1%
1961～1970	21	8.5%
1971～1980	36	14.6%
1981～1990	42	17.0%
1991～2000	56	22.7%
2001～2009	49	19.8%
不明	18	7.3%

30年以上活動を継続している団体が3割近く存在している。

#### (2) 法人格の有無

法人格	団体数(総数:247)	構成比
ある	30	12.1%
ない	217	87.9%

回答のあったうち、30団体、12%ほどが法人格を有していた。

#### (3) 活動目的

目的の主な分類	活動対象等	団体数 (総数 247)	構成比
自治会・町会		38	15.4%
PTA	各小学校・中学校	4	1.6%
福祉関連	介護・障がい者・施設慰問、医療関連 等	51	20.7%
こども関連	子育て・子育て支援、行事、子供会等	29	11.7%
環境・まちづくり関連	自然・地域・環境・交流等	19	7.7%
健康・スポーツ 関連	健康体操・運動系等	40	16.2%
趣味・文化関連	文化活動・音楽・絵・料理・生涯学習 等	66	26.7%

便宜的に活動目的を分類すると、趣味・文化関連、福祉を主な目的に掲げている団体が多い。

(4) 会員数

会員数(人)	団体数 (総数:247)	構成比
1 ~ 10	38	15.4%
11 ~ 50	95	38.5%
51 ~ 100	44	17.8%
101 ~ 150	18	7.3%
151 ~ 500	26	10.5%
501 ~ 1000	13	5.3%
101 ~	7	2.8%
不明	6	2.4%

会員数 50 名以下の組織が半数以上を占めている。

(5) 年間予算

金額(万単位)	団体数 (総数:247)	構成比
0 ~ 10	55	22.3%
11 ~ 50	64	25.9%
51 ~ 100	34	13.8%
101 ~ 200	32	13.0%
201 ~ 1000	21	8.5%
1001 万~	11	4.4%
無回答	30	12.1%

年間予算については、50 万円以下の団体が半数近くを占めている。

また 10 万円以下の団体が 1/4 近くあり、限られた資金の中で活動している様子がうかがえる。

## 2) 団体の特徴、アピール

「問 2 貴団体の特徴あるいはアピールできること。」の中から特徴的なものを列記する。

### (1) 人のネットワーク、支援

- ・協同的運営で皆が対等な立場である事をベースに事業活動に参加し責任を皆で担う。それぞれの力を生かせる働き方をしている。(小金井市たすけあいワーカーズほっとわあく)
- ・文化と子ども、地域をつなぐコーディネーター役ができる。(小金井こども劇場)
- ・多くの市民活動団体とのネットワークと情報の収集力、まちづくり関連の総合コーディネーター。(ひ・ろ・こらぼ)

- ・居場所の提供や訪問しての話し相手など、対人関係を苦手とする人の支援。(カフェにじ)
- ・利用者に年齢・性別・障がいの有無による制限がない。(ボランティアグループふらっと)
- ・母親の交流なので子育てについての情報は常にできる。(バーバパパクラブ)
- ・色々な職業、特技を持った人々が集まっている。(ふじがね夢工房)
- ・市外(山形・静岡など)の会員がいること。(長澤能面教室)

#### (2) 組織間の連携

- ・市、公民館主催事業として学習と親睦を継続。(青年学級「みんなの会」)

#### (3) 地域対応

- ・地域に密着したサービス。(エンゼルの会)

#### (4) 文化等

- ・日本の伝統文化の継承。(小金井市居合道連盟)
- ・会員相互の交流と親睦。(小金井囲碁連盟)
- ・健康、協調、奉仕。(若草会)

### 3) 団体の問題点、課題について

「問3 貴団体の運営上の問題点、課題などがありましたら教えてください。」の中から特徴的なものを列記する。

#### (1) 人材の不足、発掘

- ・有給職員が居ないので事務局運営が当面の課題。
- ・会の運営を推進する役員の高齢化、固定化。
- ・次々とスタッフ(子供のお母さん)が変わっていくのでノウハウ等が蓄積しない。
- ・ボランティアスタッフ及び学級生の高齢化、新しいスタッフの確保と発掘。
- ・新たな事業に振り向ける人材の不足。
- ・次第に会員の高齢化が進み、自分及び家族に病気の人が出たりで例会の出席者が減少。
- ・会員減少化(老人会として括られるためか)、後継者不足。
- ・仕事を持つ婦人と、これからどう活動の中で共に学びあっていくか。

#### (2) 活動場所、資機材の確保

- ・録音機器や施設などを貸していただけると助かります。
- ・体育館を南側に作ってほしい!
- ・小金井市総合体育館が使えない。活動場所の小金井二小体育館で試合ができない。
- ・音を出せる練習場所がない。
- ・会議をする会場の確保が難しい。
- ・発表会会場不足で年一回しか出来ない。
- ・小金井市内で行事が出来ない。

#### (3) 情報の発信、提供

- ・PRの問題。会の活動、存在を外部に知らせること。
- ・個人情報等の問題で視覚障がい者の全体人数がわからず、提供することが出来ない。

#### (4) 資金の確保

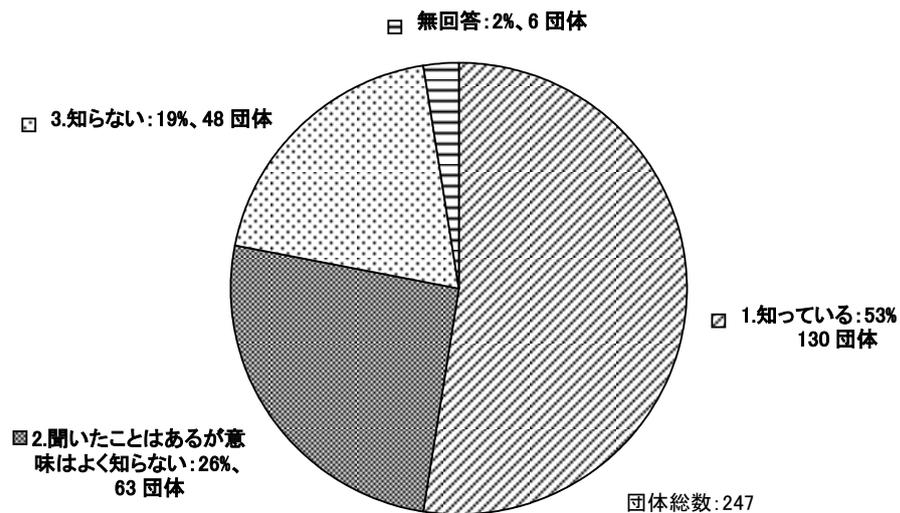
- ・活動、運営資金力不足、財政難。
- ・役員のボランティア的な活動によって支えられており、自主財源の起ち上げによる組織的自立が課題。
- ・研修旅行など各種趣味活動費の補助金。

#### (5) その他

- ・社会環境（危険と安全についての考え方、ボランティアについての考え方、健全育成と社会教育についての考え方等）。
- ・子育て環境の激変、親子の置かれている社会状況（とりわけ経済的）の劣化に伴い、市民同士・親同士で支え合う気持ちや形が形成しにくくなっている。

### 4) 「協働」という言葉について

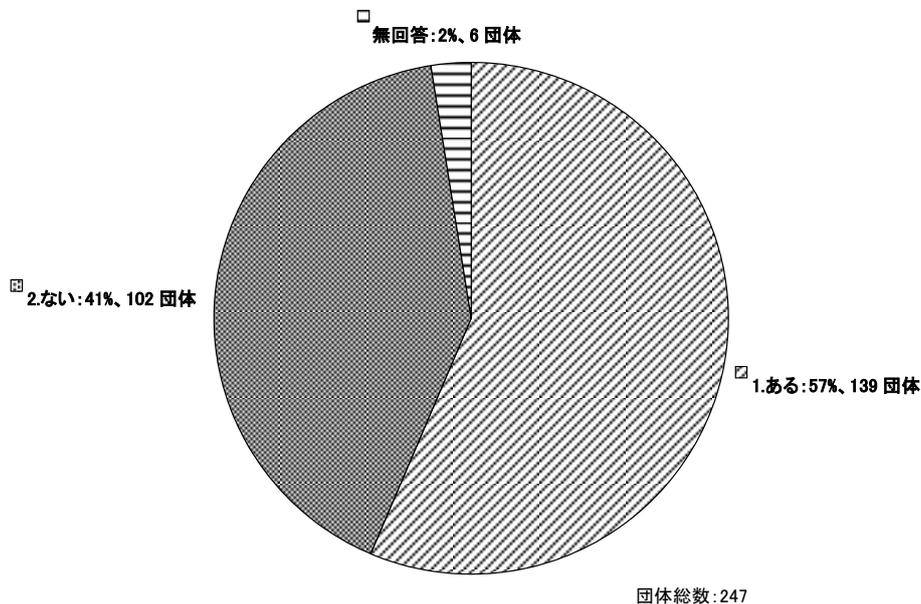
#### 問 4 協働という言葉を知っていますか



「知っている」団体が半数を超えているが、わからない、知らないも多く、言葉として浸透しているとは言いがたい。

## 5) これまでの「協働」の有無について

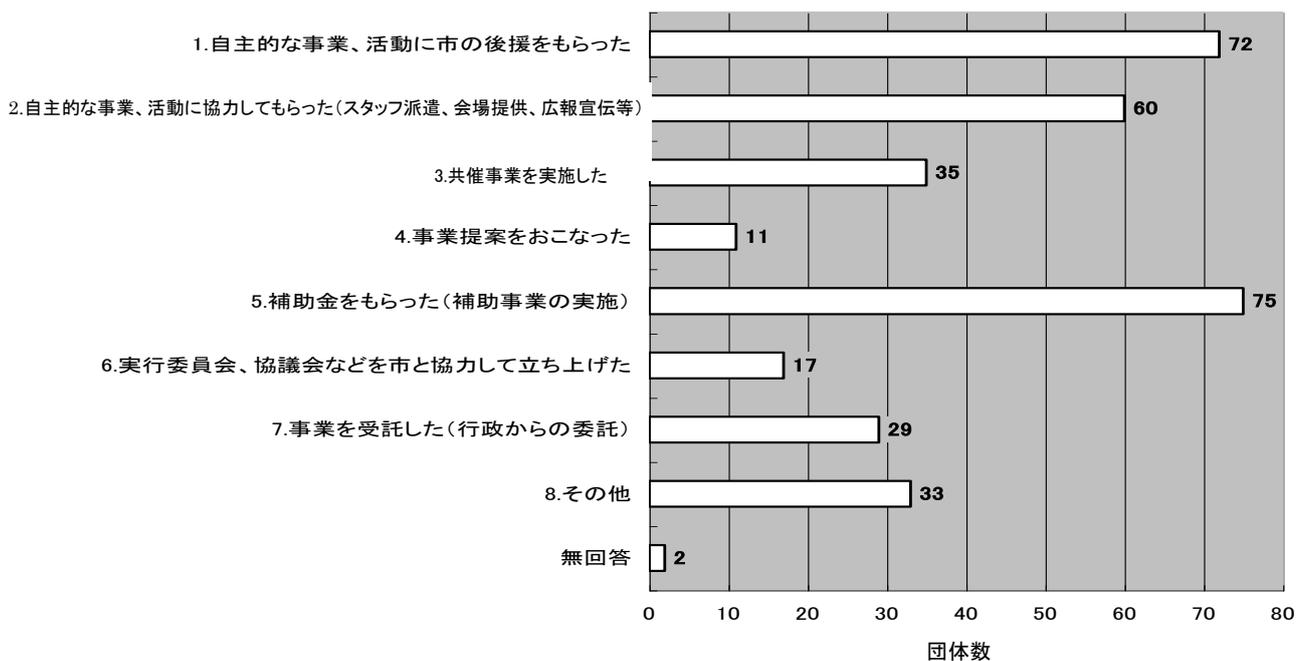
問5 「小金井市協働推進基本指針」に基づく行政との連携・協力を、  
これまでに起こったことはいりますか？



「ある」が半数を超えている。

## 6) 協働の形について

問6 問5で「ある」と答えた方にうかがいます。それはどのような形でしたか？  
(複数回答)



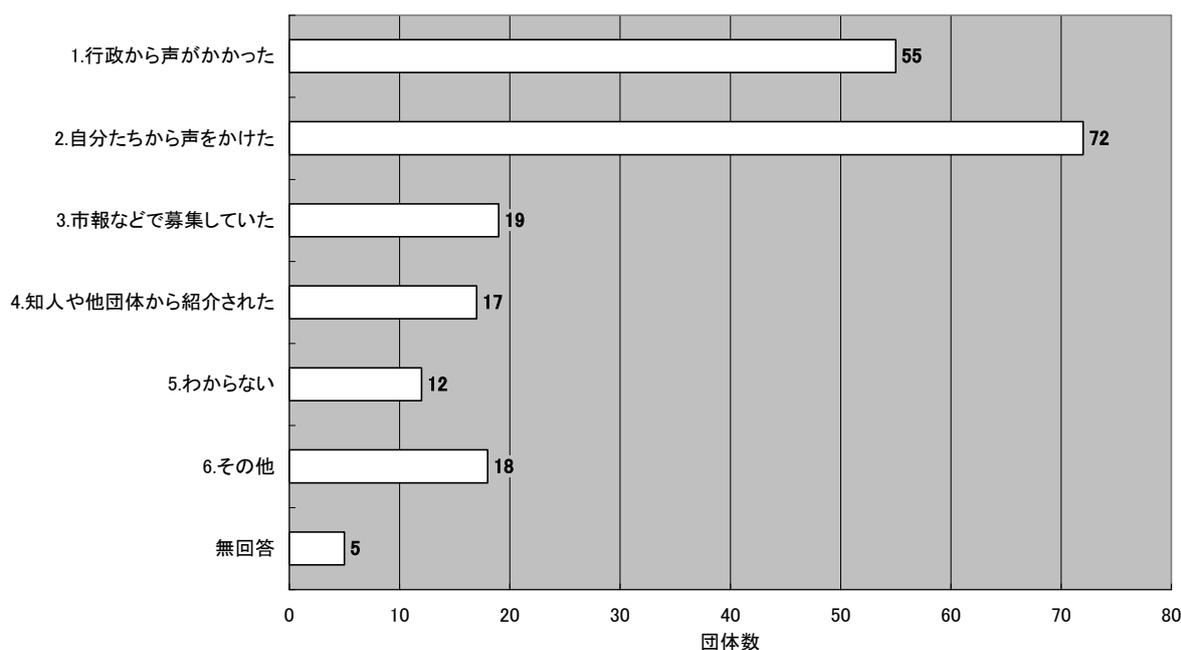
「後援」「補助金」「活動協力」が上位を占めている。

### ○「8. その他」の主な意見

- ・「こきんちゃん」缶バッチの配布、「こきんちゃんあいさつ運動」に参加・協力。
- ・火災感知器の共同購入及び設置。子どもの通学路見守り、パトロール。
- ・生ゴミ処理機の貸与、共同募金、町内運動会等の参加。
- ・活動範囲が広いため、多摩交流センターと協力して遠隔講座を月1回実施。
- ・加盟している団体（連盟）が助成金を受けた。
- ・市民まつりでの大会実施、市主催事業への参加、市との共催事業や同時開催を行った。
- ・教育委員会での理科道具、音楽教材のゴミとして出されたものの回収提供。
- ・講座（公民館事業）からのサークル化や、自主グループの立上げに希望者の募集を市報で行った。
- ・公民館主催事業として位置づけられて学習等を継続・活動している。
- ・市政だより等回覧物に対する市よりの謝礼。
- ・児童館の事業にボランティアとして協力。
- ・市の外国人窓口に相談人派遣。
- ・市の関係機関からの奉仕・ボランティアの受入れ依頼。
- ・精神障がい者配食事業。

## 7) 協働のきっかけについて

問7 そのきっかけはどのようなものですか？(複数回答)



「市民から」「行政から」が上位を占めている。

## ○「6. その他」の主な意見

- ・公民館の成人学級に参加後、公民館職員に教えて頂き自主運営での立ち上げを行えた。
- ・小金井文化協会を通じて働きかけた。
- ・はげの森美術館開館にあたり、運営委員に参加。
- ・市制 50 周年冠事業としてファミリー教室の開催、記念大会への参加。
- ・児童館の職員の方から声が掛かった。
- ・社会福祉協議会を通してボランティアの受入れ依頼があった。
- ・他の町内会、会長、市議の勧誘で自治会の登録を市に行ったから。
- ・東京都が実施していた補助金が、市区町村に移管されたことに伴う。
- ・公民館行事・小金井市総合美術展・東京多摩市美術工芸展等への積極的参加。

## 8) 協働して良かったこと

「問 8 協働して良かったことを 2 つ教えてください。」の中から、主な意見を列記する。

### (1) 広報、PRへのサポート

- ・小中学校長会等でPRできたので、広く活動を広報でき、具体的な支援を得られた。
- ・広報ポスターで、参加者やイベントへの来場者が増加した。
- ・新規会員募集を市報に掲載してもらい応募があった。
- ・団体の知名度が高まり、存在を外部にPRすることができた。
- ・よその町会の活動内容等が分かった。
- ・自主活動への後援（市民の信頼度が高くなる）。
- ・最近の情報を得ることが出来た。
- ・掲示板の貼り、はがしがなくてとても助かる。
- ・外国人会員に施設を知らせる機会ができた。

### (2) 金銭面の支援

- ・財政支援を受けられ、経済的に安定する。
- ・公園清掃の作業を年間を通して委託され、障がい者に作業工賃が入る。
- ・補助金で太鼓を購入したり、修理することが出来た。
- ・補助金を受けることによって参加費を抑えることができる。
- ・補助金を受けて意義ある研究ができた。
- ・設備資金借入れの利子の補給金を頂けたこと。
- ・生ゴミ処理機の指導担当者に助成金が支払われること。
- ・活動の継続と発展の動機づけになり、これまでできなかった取り組みができた。
- ・全てボランティアで行っているが、資料代やその他の経費がまかなえた。

### (3) 活動場所、会場等の確保

- ・活動場所の提供、そして活動全般の理解をいただいている事。
- ・公民館、集会所など会場手配が楽になり、優先的に会場使用が確保できる。
- ・会場、機材置場、広報などの支援を受けることができた。
- ・毎週の会場を無料で提供して頂いているので助かる。

- ・総合体育館で国際試合ができた！
- ・会場取得等が事前調査でき、早々に年間運営計画が決められる。

#### (4) 機材、物資、人手の貸与、提供

- ・福祉機器（車椅子）の貸出運搬を得られた。
- ・公民館等の備品、物品(器具等)の貸与、保管。
- ・生ゴミ処理による、ゴミ減量への貢献。
- ・市から機材や人員の協力が得られる。

#### (5) 人的な交流、組織間の連携

- ・他団体との意見交換や交流、連携ができるようになった。
- ・他市との交流が出来ること（県外）。
- ・市の担当者と親しく話せるようになり、市の事業内容を詳しく理解できるようになった。
- ・市民と市（行政）との関係が良くなり連携がとりやすくなった。
- ・自団体独自でとてもできない近隣社会の支援。
- ・地域全体との交流、活動に対する各方面の理解・協力が深くなった。
- ・市の職員の悩みがよく分かった。
- ・会の要望等も理解を深めてもらった。
- ・障がい者の方と関わりをもつことができた。
- ・子ども達とのふれあい、子ども達の成長をみられる。
- ・住民の連帯意識が向上した。
- ・活動の一分野である「社会に奉仕する」機会が与えられた。
- ・「こきんちゃん」は、今までの安心・安全の声かけに基軸ができた。
- ・発表会に、市長、議員の方々に来て頂き、式典等が賑やかになった。

#### (6) 相互理解

- ・行政の主権により従来の偏見を少しずつとる事ができた。
- ・サイレントマジョリティを掘りおこせた。
- ・出前講座、文化福祉等の見解が深まった。
- ・行政としての視点からアドバイスを受ける事ができた。
- ・障がい者に市役所内で簡単な作業体験をさせてもらった。
- ・協働の契約は従来の委託契約ではなく、新規に規定してほしいことがわかった。

#### (7) 社会的な位置づけ、評価

- ・事業活動の公益性について社会的評価が得られるようになったこと。
- ・協働により、団体の特長を生かし実績として評価された。
- ・共催事業、事業の契機が得られたこと。
- ・市の制度として確立された（産後支援から育児支援政策へ）。
- ・町内会では出来ないことが可能になる。
- ・点字意義のアピール。

#### (8) 継続性の担保

- ・公民館主催事業の位置づけで継続性を持てる。

(9) 資機材の利用など

- ・中距離見学会にみどり号を利用。

9) 協働して良くなかったこと

問9 協働して困ったこと、良くなかったことを2つ教えてください。

(1) 金銭、予算の手続きなど

- ・補助金の振込みが郵便局はダメなこと。
- ・利用料金が低く設定されているので、事業としては成立たない。
- ・予算をやりくりして残したら、役所みたいに使い切る様に言われて困った。
- ・予算の制約、こちらが意図していることに使えないこと。
- ・補助金が5回で打ち切られたこと。
- ・当地区は銀行が皆撤退したため、個人口座に振込まれるので、忘れていると横領した形になってしまう。
- ・市の予算削減等で事業規模が縮小されてきている。

(2) 書類、事務処理が多い

- ・報告書等提出物の項目が多い。
- ・手続きが複雑で少し困った。(書類等)
- ・書類の記述が面倒。(締め切り期日が早い等)
- ・事務処理量が増え、時間、人手がかかった。

(3) 情報発信における問題

- ・市報で伝えたい事が、学校等の制約等で伝わりきらない感じだった。
- ・ポスター等掲載期間があまりなかった。
- ・市報の告知欄のスペースが小さすぎる。
- ・市政だより等回覧物が多い。

(4) 意識、見解のズレ

- ・市との相互理解不足による事業の遅滞。
- ・市が市民団体との協働の考え方を十分理解しておらず、意識、意見のずれを感じた。
- ・企画提案の実現に協力する姿勢を感じず、市の言うことをのむばかりだった。
- ・現場を知らなさすぎて、市職員との意識に大きなズレがあること。
- ・それは行政の仕事ではないかと思うようなことまで安易に依頼してくる。
- ・市のイメージする共催の形とは違ったと言われた。
- ・現実的に共につくりあげる制度になっていない。
- ・同じテーブルで課題の共有や可能性など議論した事が無いに近い。

(5) 職員の態度、対応等

- ・行政と対等の関係と考えても、行政は「〇〇してやっている」という高圧的態度が抜けきれていないこと。
- ・自治会として安全安心にかかわる「当たり前」の要望事項にも不誠実で満足な対応が無い。
- ・協働意識のない職員も多く、担当者が変わると継続できなくなるのではないかという不安。

- ・担当者によってかなり温度差があり担当部署以外はほとんど無関心であること。
- ・担当が変わるたび最初から説明が必要で、中々継続的な関係を結びにくい。
- ・良いものを作りたいと思い受けたのに事業受託の際は一業者としての扱いで、市民として尊重して欲しかった。
- ・市の担当者の立場がわかると強い事をいいにくくなる。
- ・講義名（タイトル）や講師肩書きの若干の変更をさせられた。

#### （６）確認などに時間がかかる

- ・関係部署間の横の連絡が良くないため、了解をもらうのに時間がかかった。
- ・協働（予算が決定・執行）までの期間が長いこと。
- ・自治会登録後頻繁に会合があり自分の仕事があると出席できない。
- ・協働を依頼された行事の詳細内容が中々入手できないことがある。

#### （７）継続性の担保

- ・どの程度、継続性があるか読めない。
- ・支援・協働の継続性がないこと。
- ・今後の見通しが早めに知りたい。
- ・市の事業に協力し続けなければならないのを負担に感じる時がある。

#### （８）組織体制の課題

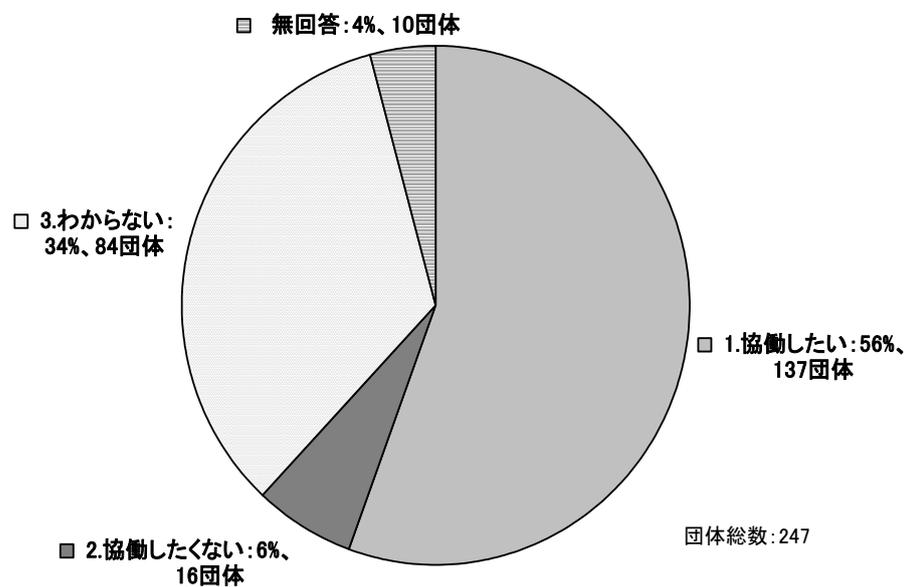
- ・当会は専従委員を置いているわけではないので役員の負担が大きい。
- ・委託事業でしたが、報告書の作成等はボランティア（無給）で行っている。
- ・余裕がなくなり自主事業に手がまわらなくなった。
- ・NPOだから安価で質の良いケアが出来る行政から期待されるが、ヘルパー不足のため市民のニーズに応えられない。

#### （９）その他

- ・参加、協働したいと思っても、移動等の交通が不便。
- ・介助者が不十分で参加出来ない人が多い。
- ・会員同士の親睦会、会員募集についても制約が多いこと。
- ・実行委員任期終了時、全員が交代するので戸惑うことが多かった。
- ・ボランティアでやっているが市役所の事業のように勘違いされた。
- ・狩り出される感じになることも。
- ・市内の他団体からのねたみや陰口。
- ・自立生活支援センターの職員が設立のいきさつを知らず、交流できなかった。
- ・単なる名義貸し以上の支援が得られなかったこと。
- ・放課後子供教室が次年度（2010年度）で打ち切られるとのこと。

## 10) 今後の協働の希望について

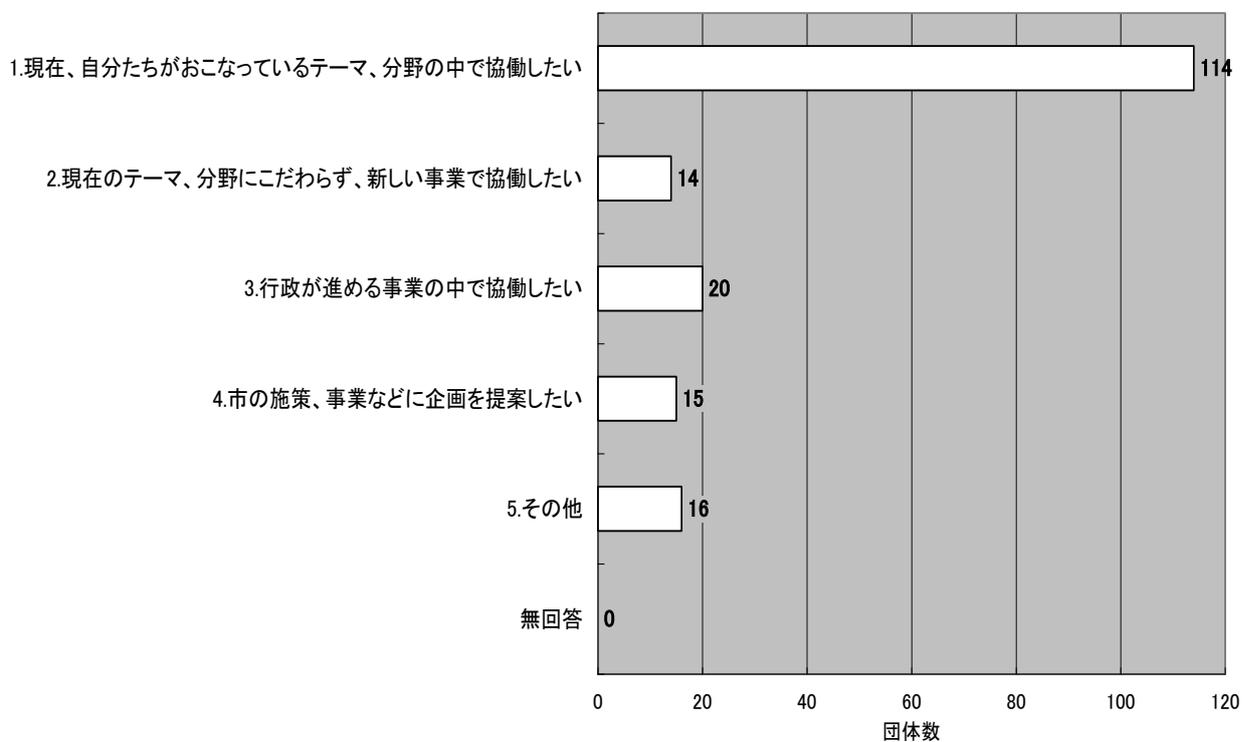
### 問10 今後、行政と協働したいと思いますか？



「協働したい」が56%、「わからない」が34%となっている。

## 1 1) 今後の協働の形について

問11 問10で「協働したい」と答えた方にうかがいます。  
協働するとしたらどのような形でおこないたいですか？(複数回答)



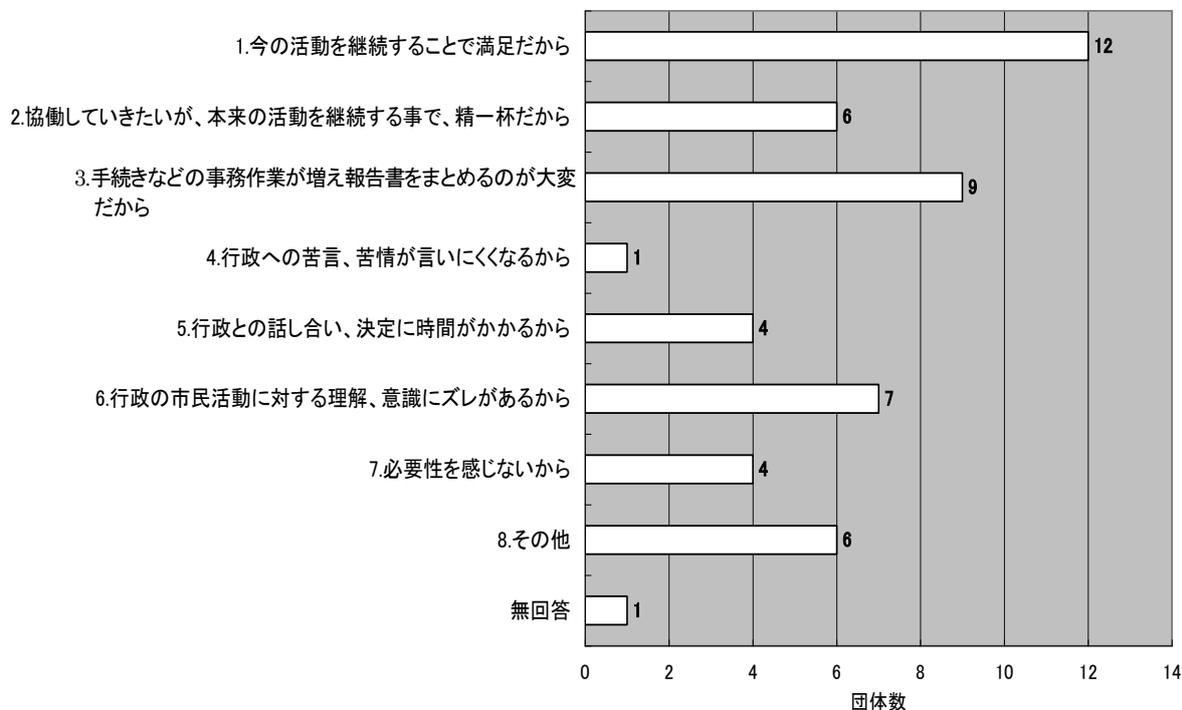
「自分たちが行っているテーマ、事業の中で協働したい」が圧倒している。

### ○ 「5. その他」の主な意見

- ・市報「後援事業、サークル紹介」欄への掲載希望。
- ・自分達が行う業務を後援してほしい。
- ・今までの活動、分野から発展する形になってもよいので、地域文化に深くかかわっていききたい。
- ・廃品回収及び市道の管理、草取り、刈り込み等で町会に交付金を支給してもらえないでしょうか。
- ・高齢者の家庭への関わりは自治体としては限界があり、自立ネットワークの中での役割を決め、活動していく。
- ・障がいをもつ青年のために事業継続をする。
- ・実際どのような形で協働ができるのか、今の所よくわからない。

## 1 2) 協働したくない理由について

問12 問10で「協働したくない」と答えた方にうかがいます。協働したくない理由はどのようなものですか？(複数回答)



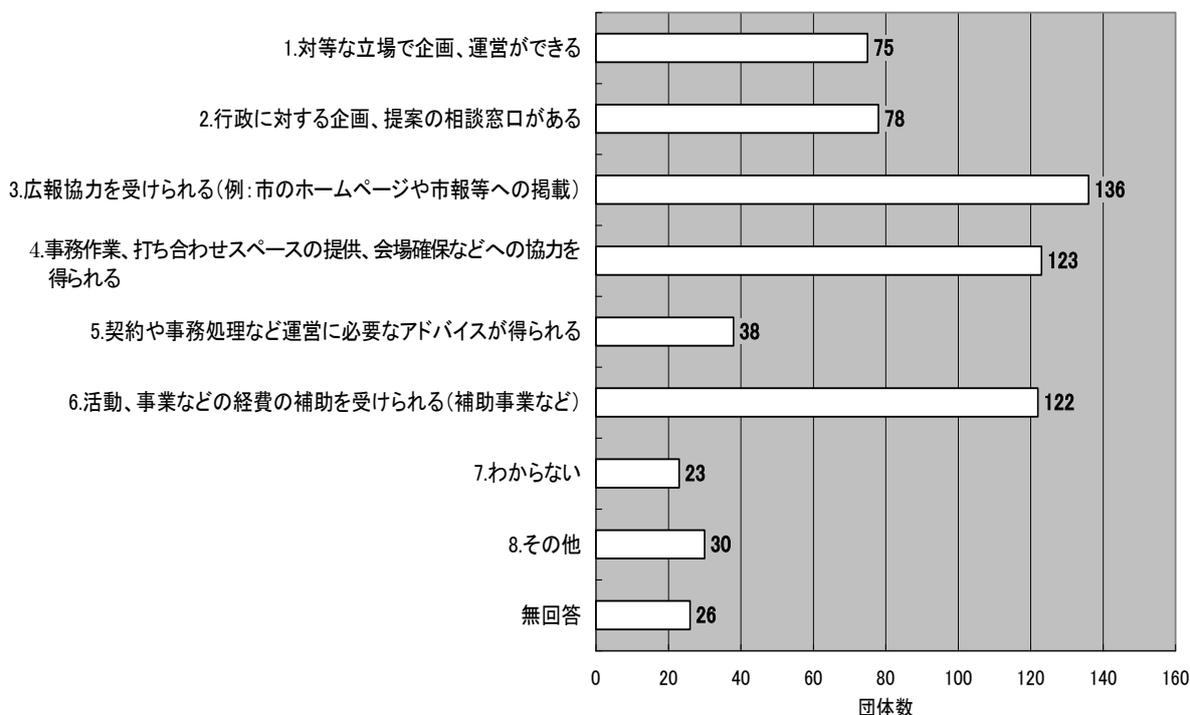
現状に満足しているほか、手間、行政側の意識のズレがあがっている。

### ○「8. その他」の主な意見

- ・高齢のためか参加者が減少気味なので、これ以上の事業は考えたくない。
- ・会員は、仕事、育児、家事で忙しく、何とか時間を作って活動をしているので、今現在は無理です、協働は。
- ・協働したいことがあったとしても、現在の活動を維持するだけで大変。活動の拡大はできない。
- ・手続きなど事務作業が増えるから。助成金、補助金などは特に。
- ・会議が多くなる（無駄が多い）ため役員の負担が重くなる。
- ・何を提言しても予算がないで終わってしまうことが多く、やる気がものすごくなくなる！  
考えてほしい！

### 1 3) 協働に向けての環境について

問13 今後、行政と協働するとしたら、どのような環境や条件が整っていると良いと思いますか？(複数回答)



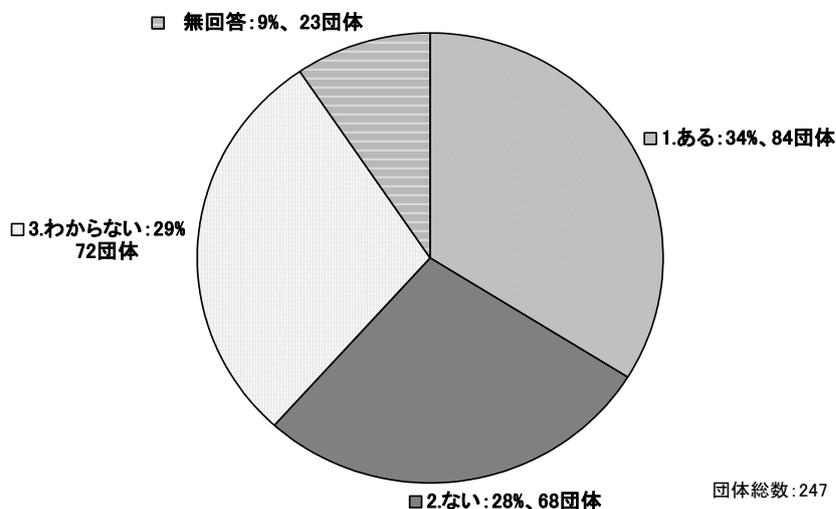
情報発信、活動のスペース、補助等が多くあがっている。

#### ○「8. その他」主な意見

- ・「自治」とは何かを明確にし、「市民による市民のためのまちづくり」を図ってほしい。
- ・市職員と市民との人的交流を図り、お互い協力し合える環境にあること。
- ・広報協力の一つですが、広報紙・チラシなどは一箇所に持っていけば関係各所に配布してもらえるシステムがあると助かります
- ・行政の下請け的なことは困る。「市政だより」「公民館だより」等の回覧などの文書は、当然、市報等に編み入れて個別配布するべき。
- ・会場の椅子の準備や片付けの手伝い、人手などの現場への協力をしてほしい。
- ・専門的意見を聞くことが出来る。
- ・児童館内での無理のない活動が目標なので、他児童館にひろげないかぎり、現状でよい。
- ・市内に勉強会や発表会をできるスペースが少ない。
- ・市の施設(発表会・展覧会々場等)の定期的・優先的な使用。
- ・市の補助金は5回で終わるらしいので考えてみる必要があると思います。
- ・全職員の協働に対する意識と関心の向上、市民活動への理解。
- ・主催者が利用(出展)者主体の立場であることを、行政側も理解して協働してほしい。
- ・市から委託を受けている各種委員と自治会の交流機会を増やすこと。
- ・行政の、より積極的な協働への参加を望みます。

#### 14) 協働したい団体、組織等について

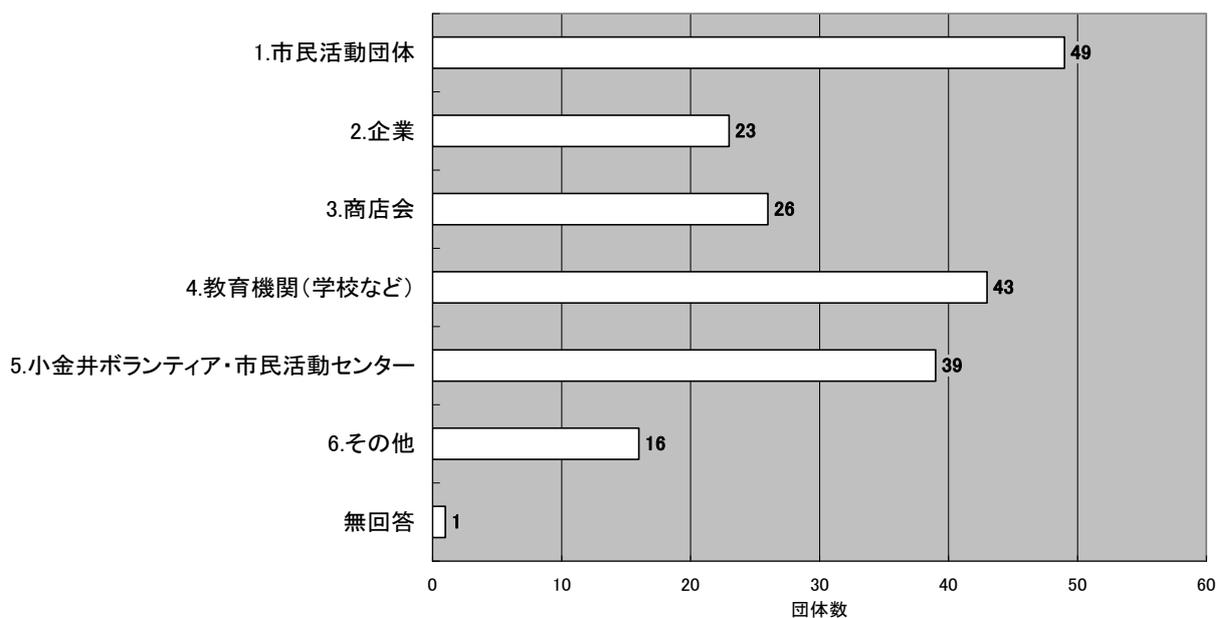
##### 問14 行政以外で協働したい団体や組織はありますか？



「ある」「ない」「わからない」がそれぞれ3割程度となっている。

#### 15) 協働したい団体等の種類について

##### 問15 問14で「ある」と答えた方にうかがいます。それはどのような団体ですか？(複数回答)



市民活動団体、教育機関、ボランティア・市民活動センターが多くなっている。

## ○「6. その他」の主な意見

- ・警察や消防
- ・地元、自治会、子ども会
- ・図書館・公民館
- ・シルバー人材センター
- ・医者、保健師、病院、介護支援事業者
- ・マスコミ、メディア
- ・社会福祉協議会
- ・他市の青年学級
- ・民生委員

## 16) 取り組みたい内容について

### 問16 その理由、あるいは取り組みたい内容を教えてください。

#### (1) 活動の充実、拡大

- ・会の目的や内容が類似した活動をしている団体との交流、共通のテーマで一緒に活動することで幅を広げて共に前進していけると思う。
- ・様々なセンター、団体間のネットワークを強化することで、色々な角度から準備・実行することができ、アイデアも沢山出てくると思うから。
- ・色々な団体と協働でイベントをもちたい。
- ・常にサポートできる関係でありたいから。
- ・連携しないと出来ない取り組みがある。
- ・情報交換し、いろいろな形をさぐってみたいから。
- ・自団体の活動において小学校体育館を使用したい。
- ・金銭的援助。
- ・高齢化や障がい者への安全管理及び相互理解を専門の方々に協力してほしい。
- ・企画、運営、観客やサポーター等参加をお願いしたいから。
- ・広い意味での写真文化を広める。

#### (2) 活動内容の広報、周知

- ・団体の知名度を高め活動に対する理解を一層深めて頂く。
- ・子育て関連事業などで有名企業にもお手伝い頂きたい。
- ・企業や商店会などの後援を得たい。
- ・学校放課後の居場所づくり、学芸大学内でのプレイパークの常設化、商店会での子どもまちづくり。

#### (3) 情報の受発信

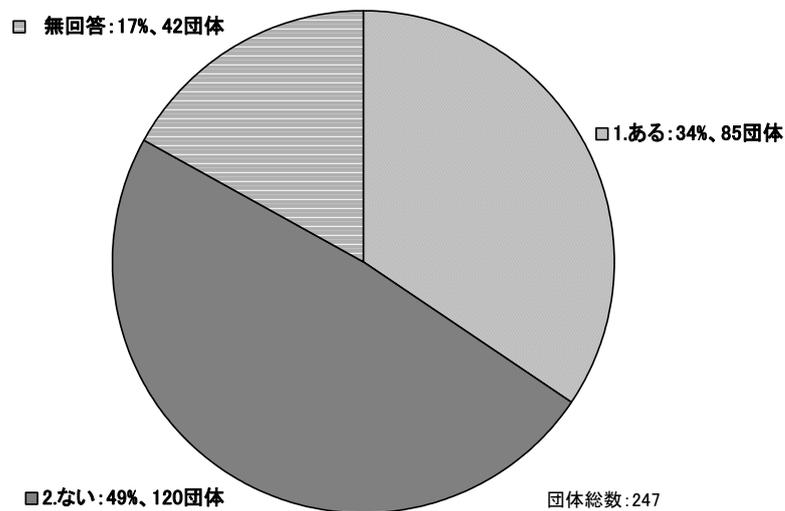
- ・社会福祉活動等相互の情報交換。
- ・外国人の方への広報協力が得られる。(主に大学や研究機関など)

#### (4) 取り組みたい内容

- ・市民起業、啓発活動
- ・災害時対応、大地震発生の際の要援護者の見守り。
- ・同じ悩みをもつお母さんがストレス解消出来るような場所づくり。
- ・協働、コミュニティの場を備えた子育てと高齢者の終の住居を協働で支え合う家づくり。
- ・地域で障がい者、高齢者、子どもたちが安心して生活できるまちづくり。
- ・配食ボランティアグループの強化。
- ・市全体の美術展覧会を開けたら良いなと思っている。
- ・囲碁を高齢者の知的活動（認知症の軽減）、児童生徒と高齢者との交流に生かす。
- ・市民の宝でもある野川の自然を豊かにすることで、未来への遺産を守りたい。
- ・地域でのバス・タクシー・福祉有償運送等、高齢者・障がい者など弱者を対象とした輸送体系設備をすすめる必要性を検討したい。
- ・図書館の本のD A I S Y化、公民館などでの読み聞かせ対面朗読など。
- ・一般企業への就労支援。
- ・学校でのワークショップ。
- ・企業の健康保険組合と協力して、社員の健康づくりをして活動を広めて行きたい。

#### 17) 協働したいテーマ、課題の有無について

##### 問17 今後行政と協働したいと考えているテーマや課題がありますか？



「ない」が半数を占めている。

## 18) 協働したいテーマについて

問18それはどのようなテーマ、課題ですか？差し支えなければ内容を教えて下さい。

### (1) 健康・趣味・文化

- ・介護予防。
- ・市民岳協議会、山岳連盟設立。中高年愛好者の事故も増加しているため普及活動が急務。
- ・個人映画、実験映画、ドキュメンタリー、自主映画等を製作上映することで町の活性化を図る。
- ・市民合唱団、市の音楽協会の設立。
- ・小、中学生の書道教育の発展に協力する。

### (2) 介護福祉（障がい福祉）

- ・高齢者住宅のゴミ出し隊をテレビで見たが何か考えなくてはという時期が来ると思う。
- ・地域と密着した老人層のつながり。(会員の拡大)
- ・ボランティアの受入れ。
- ・障がい者の情報及び、出来ない場合はこちらサイドのPRを配布していただきたい。
- ・市報、議会だより、録音図書のDAISY（デジタル）化。
- ・障がい者の防災関係について。
- ・地域での弱者を対象とした輸送体系設備の検討を行政にも関与してほしい。
- ・障がいに関する理解推進パンフレットに、行政の「後援」があれば地域理解が大きく広がると期待しています。
- ・障がい者へ働く場所の提供。

### (3) 子ども・家庭

- ・子育て、子育て支援、食育、ニート、ひきこもり、不登校について。(学習会、当事者の居場所作り、親のつながりの場作り)
- ・現行の認可外保育施設への民間委託だけではなく、広く子育て支援にかかれる「ひろば」事業など。
- ・介護・子育て支援の必要な家庭に対して、行政・民間の立場からアプローチする。
- ・他世代交流や安心相談の場づくり、市民センターのオープン。(駅前オープンスペースで)
- ・常設の冒険遊び場(プレーパーク)、乳幼児の居場所事業など。
- ・空き教室や、校庭等でイベントができればいいなと考えている。
- ・ホームスタート(ブックスタート)、子育て支援中間組織。(ネットワーク)
- ・杉並区立和田中学校が行っていた「よのなか科」。
- ・市内小学校中学校の学区見直しの件。
- ・小金井市の児童館活動において、市民の意見を取入れ子育て地域の連携や育児支援を、もっと現状と市民のニーズに合わせて行う。
- ・市民の意識を高め、良い家庭運営のための家事家計講習会の実施。

### (4) 自然・地域環境

- ・一般市民の森林整備体験。
- ・植物性の廃油の回収とジーゼル燃焼化、エコロジーにプラスになります。

- ・小金井市内の動植物に関する調査を市民に参加してもらえよう呼びかけの広報、発信作業。
- ・「名勝小金井桜」のヤマザクラ並木の復活・再生。
- ・市内の自然環境、社会環境に関する継続的調査と広報を通じた環境啓発事業。
- ・市民が身近に楽しめる生きものマップづくりと生物多様性ライフの提案。
- ・地場野菜の普及・レストランなど、商店街・福祉活動との連携事業。

#### (5) 施設・設備

- ・体育施設の新設、現在の施設の有効利用。
- ・1団地でなく小金井市内の他の団地も含めての、高齢化した団地建物の建替え・大規模修繕を協働したい。
- ・新しいホールとの関わり方。
- ・ならびが丘の永年懸案の「空き屋」問題。
- ・木場公園の付帯設備（トイレ・水道等）の設置。
- ・体育館等の公設施設の定期的な点検・補修。

#### (6) 市政

- ・小金井市以外で稼いで、小金井市内でお金を使うしくみづくり。
- ・開発と市内史跡等の保存。
- ・職員の協働に関する意識改革→コーディネーター体験講座。
- ・協働センターの設立。
- ・低所得層の葬儀について。
- ・講習会等の参加特典で地元商店街どの店でも使用できる無料か割引クーポン券の発行。

#### (7) 防犯・防災

- ・大地震発生の際、要援護者の見守り。
- ・災害から守る力「あなたにもできる人命救助と避難所体験！」の合同開催・実施、予算。
- ・自治会員の高齢化に伴い、安全管理（特に災害等）の確保を具体化する。
- ・小学校通学路の安全確保。

#### (8) 国際交流

- ・国際交流を進め、外国との関係・意識を市民レベルまで上げ、小金井市の国際化を図る。
- ・市内に住んでいる外国の人々の防災、救護等の受け入れ協調する。
- ・日本語の授業以外に色々な場面で、多くの市民と外国籍の方との交流を図りたい。
- ・国際交流と教育の橋渡し。

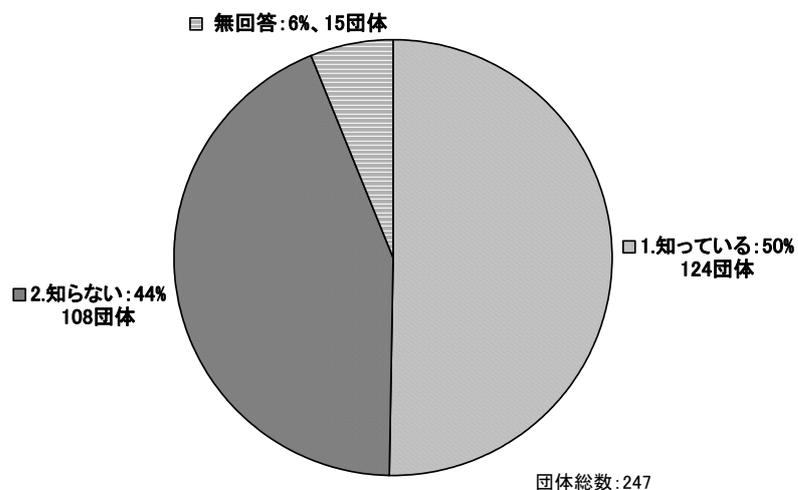
#### (9) イベント

- ・市民まつり、文化祭りなどの市民参加による継続的活動、季節ごとのイベント。
- ・小金井市総合体育館を使つてのミニバスケットボールの大会設営。
- ・絵画、美術団体の各責任者を集め、市全体での美術展覧会のような催し。
- ・わんぱく夏まつりの継続と同時開催事業(わんぱく団)の拡充。
- ・市内の中学生に大会（中体連と軟連）の協働開催、春大会、秋大会等。
- ・「ずっと元気でね」Tシャツプロジェクトの継続。

- ・新設される（仮称）市民交流センターのこけら落とし企画の立案・参画。
- ・小金井市民芸術祭の再興。
- ・小金井市シビックセンター完成後、「シニアフェスティバル」等での文化・芸術的側面のイベント開催。

## 19) 市民協働支援センター準備室について

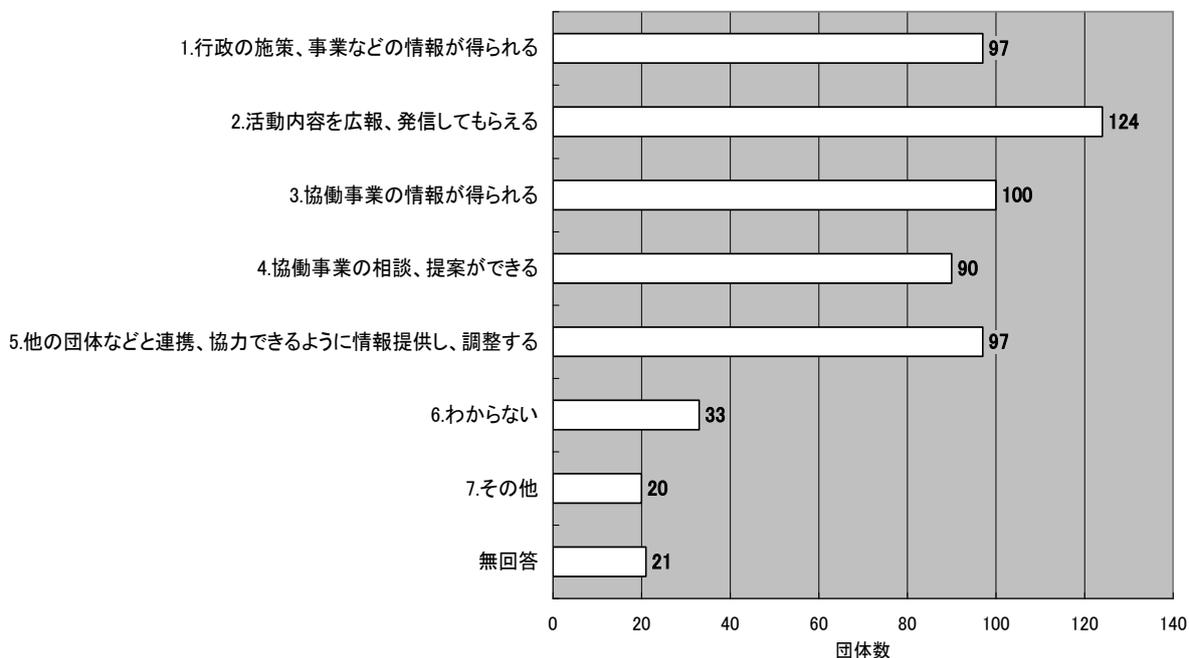
問19 本年9月から福社会館2階に市民協働センター準備室が開設されていますが、ご存じですか？



「知らない」が半数近くあり、いまだに広報が不十分である。

## 20) 市民協働支援センター準備室に求める機能等について

問20 今後、市民協働支援センター準備室にはどのような機能、活動などを期待しますか？(複数回答)



どの項目にも期待があり、多様な活動が求められている。

### ○「7.その他」の主な意見

- ・「協働」の中身の実体化。
- ・協働センター設立にむけての活動。
- ・協働事業の情報が得られる。実際の動きがどういうものなのか知りたい。
- ・活動団体の立場に立ち、現在の行政施策を住民本位（主体）のものに変えてほしい。
- ・協働支援の具体的内容が全くわかりません。何をどう相談するところなのか、どんな事をどうやりたいのかを、まず協働支援センターの側からアピールしてほしい。
- ・協働するのに、どの部署の人達と話し合いをしたら良いか適切なアドバイスがほしい。
- ・ある程度の貢献度を示すボランティア切符を発行し、それが自身の介護に他の方から援助を受けられるような小金井市独自の組織を立ち上げて欲しい。
- ・市の関係構造の調整、意見調整がスムーズにできる。
- ・定期的活動の場所の提供。
- ・ネットワークするための場、交流会、コピー機、印刷機等。
- ・PTA活動等に詳しい職員を配置して欲しい。
- ・「行政の組織風土の改革」が大前提であり、市民主体の協働の中で諸々の調整機能や建設的な役割、活動を切に期待したい。
- ・毎年その活動を評価し、公表すること。第三者による審査を実施すること。耳の痛いことから逃げないこと。客観的に見て市民から理解を得るものであることが必要だと思います。

## 2 1) 自由記述からの抜粋

### 問21 市民活動団体等と行政の協働について、お考え、ご意見をお聞かせ下さい。

#### (1) 協働の目的、成果の共有

- ・協働することでそれぞれのできることを分担できるのでお互いに助かる。
- ・自主グループを育てる為には環境を整える必要があります。グループが育ってこそ、対等な関係の協働が可能だと思います。
- ・市民団体は自立して活動をしていく事、又、行政は市にとって必要と思われる事業について積極的に市民団体と協力していく姿勢を持つことが大事だと思います。
- ・これからは市民の知識やアイデアを活かした「協働」が重要な時代になると思います。
- ・単に市民活動をサポートすればよいということではなく、共通の目標を共有しそれぞれの立場で努力することであることを全職員にわかってもらいたいと思う。
- ・行政の側で当市が目指す方向を開示して欲しい。
- ・従来事業の内容は十分に協働の要件を満たしているものは多い。「協働」ときちんと位置付けることで更に広がる活動もあると思う。
- ・市民の育成に、行政主導ではなく環境を整える形で行って欲しい。
- ・安易な行政改革で民間委託をすすめることと協働を同意に考える様な方向性は違う事を行政に理解してほしい。
- ・市民活動団体と行政との平等な関係の確保が必要、行政的視点だけで取り組むと失敗する。
- ・協働推進指針は対等なパートナーの関係、目標は「住民自治のまちづくり」であると思う。
- ・協働のイメージがまだ見えません。具体的な事例があれば紹介してください。

#### (2) 相互理解の必要性

- ・市民のほう縦割りになっている側面もあると感じています。市民同士が協働できる基盤をまずつくる必要があるように思います。
- ・行政の方、市民団体ともお互いに勉強し合うことが必要だと思います。
- ・市役所の職員は市民の意見を聞く機会を積極的に作って欲しい。市民の声を聞き、考え、行動していく様になってほしいと考えます。
- ・協働といっても行政は資金・場所等の提供側、市民団体はアイデア・労力の提供というパターンになると思われるが。対等のパートナーという関係は可能なのか。
- ・双方が同じ目的で動いていると実感できる事業に取り組みたい。
- ・府中市では小中学校の音楽室を市民に貸し出していると聞きます。子どもたちのすこやかな成長のためにも公共施設の充実を願っています。

#### (3) 手続き等の簡略化

- ・行政の支援を受ける際の申請方法をもっと簡易に。インタビュー形式での申請にする等。

#### (4) 協働支援センターに求めること

- ・より目に見えて成果をあげる為に、行政、市民団体の双方に強力な旗振り役が必須と考える。市民団体側は「準備室」が担い、行政側にも「明確」な部署を作ってもらうべき。
- ・「市民協働支援センター準備室」が特化して交流など企画し、団体同士の出会いを作っても

らえれば。一定中立的なところが声をかけないと個性的な市民活動家・団体は自然体で集まりにくいのではと思います。

- 市民協働センター準備室の業務内容にもあるように、コーディネートが最も重要な役割と思う。
- 単なる団体相互間のコーディネートに終わらず、地域を巻き込んでの共同参画にリーダーとして取り組んで欲しい。
- 協働において、公民館を有効使用することで身近な問題を解決していけたら。

## ■ 3 ヒアリング調査

アンケート調査の結果から抽出した団体から、協働に対する考え方、すすめ方、課題などをより詳細に聞き取るため、ヒアリング調査を実施した。

その内容を以下にまとめる。

### 1) ヒアリング調査先の選定

ヒアリング先は、回収したアンケート調査票の中から活動内容、活動状況、協働に対する考え方などについての記述、回答がしっかりしている団体から選定した。

活動内容については、町会、まちづくり、スポーツ、環境、学習、子育て支援、福祉、企業支援、料理、文化など、多様なテーマの中からそれぞれ選定し、次表の10団体に対しインタビュー調査を行った。

#### ○ヒアリング調査先一覧

テーマ	団体名	活動概要	選定理由
町会	本町五丁目第三町会	市・警察・消防との連携、社協と「災害時まち歩き」を実施	様々な組織との連携
まちづくり	小金井市青年会議所	市民の参画意識の向上支援	地域・まちづくりの中核を担う
スポーツ	NPO法人 黄金井倶楽部	各種スポーツ教室	協働経験が豊富
環境	小金井市環境市民会議	環境活動の実施・情報収集・コーディネート	協働が成功している
学習（中学）	ふじがね夢工房	中学生向けの学習教室	協力的でない中学校との関係
子育て支援	KOKOぷらねっと	子育て情報誌の作成	協働経験が豊富
福祉	NPO法人 地域の寄り合い所 また明日	保健・医療又は福祉、まちづくり、健全育成	事業経験が豊富
企業支援	小金井市民起業サポートセンター カッセ KOGANEI	起業支援	役所との関わり
料理	小金井市翁味会	高齢男性の調理実習と料理のボランティア	元気で活発
文化	NPO法人 遊び・文化NPO 小金井こども劇場	舞台鑑賞の企画、開催、プロの芸術家によるワークショップ、講演会等の開催	行政、他団体との連携が進行中

## 2) ヒアリング調査の方法

ヒアリング調査は、事前に主旨、意図をメール等により伝え、アポイントをとった上で行った。あらかじめ伝えた質問項目は以下の通りである。

- ①これまでの協働において、目的は達成されたか
- ②協働がうまく進んだと思う要因はなにか
- ③協働がうまく進まなかった要因はなにか、またどのように対処したか
- ④現在継続している協働においての問題点はあるか
- ⑤今後活動を継続する上で、市行政に望むことはあるか
- ⑥その他

ヒアリング調査は、一問一答形式ではなく、回答の内容や話し合いの雰囲気に応じて臨機応変に進めた。よって、回収された結果は団体、組織によって一様ではない。

## 3) ヒアリングの結果

10 団体に行ったヒアリング調査の結果を以下に整理する。

### (1) KOKO ぷらねっと

- ・日 時：2009年12月11日（金）10時～11時
- ・場 所：前原暫定集会施設
- ・出 席：塚田昭子さん、福島真理さん
- ・聞き手：五島、大久保、挽野（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

#### ○これまでの協働における達成状況

- ・活動内容がいくつかあり、それぞれ異なる。

#### ○協働がうまく進まなかった原因

- ・活動当初に行政から受託した事業があったが、互いに「協働」という意識はなかったし、言葉もなかったと思う。
- ・行政側の担当者が変わると考え方や対応も変わり、話がまとまらないことがある。
- ・子育て、子育て環境を改善していきたいが、行政が進める事業の考え方や方向性がわからないことがある。
- ・「のびのび こがねいっ子」を平成14年に市民編集委員として作成したが、その時は様々な提案が実現でき大変よかった。その後平成18年に受託した事業の際は、一事業者として扱われ対等な会話が出来なかった。「市民」と「委託先」という立場によつての違いに驚いた。

#### ○協働してよかったこと

- ・市政50周年記念号の発行ができたこと。
- ・助成金を受けた。
- ・幼稚園ガイダンスの広報ができた。

#### ○現状の行政に対して思うこと

- ・現在発行されている「のびのび こがねいっ子」について、行政的には内容も同じだという認識のようだが、最初から作成に関わってきたものからすると違うものになってしまったという印象をもっている。
- ・少なくとも、最初の「のびのび こがねいっ子」の作成に関しては、市民の声を取り入れ、銘打ってやったわけではないけれど、「協働」の良い例としてあげられるはずなのに、後退してしまって残念だ。
- ・行政側が市民と協働することのメリットを見出せていないのではないか。
- ・市民からの要望、提案に対して必要以上に過敏な警戒心があるように感じる。組織間ではなく対人的な信頼関係の構築が必要。
- ・活動が長いこともあり行政からは信頼されていると感じている。
- ・行政との協働、事業など積極的に進めたいと考えているわけではない。状況や内容によつて対応を考えていく。
- ・市の基本計画に「協働」が掲げられた頃から職員の対応も少しずつよくなっている。「協働」をブームにするのではなく、本質的な必要性を認識して、行政と市民の話し合いができるといい。
- ・個人情報公開をせずに、相互に情報を共有し連絡を取れる窓口があるとよい。

## (2) ふじがね 夢工房

- ・日 時：2009年12月18日（金）10時～11時
- ・場 所：前原暫定集会施設
- ・出 席：宮下 孝弘さん
- ・聞き手：五島、大久保、挽野（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

### ○これまでの活動状況

- ・小金井市立第一中の図書室を借り、子どもの居場所づくりを行っている。利用者の中学生は学習、友達と話す、大人と何となく話すなどをして過ごしている。
- ・メンバーは中学生の保護者や、今の教育が少しでも良くなればと思っている人たち。
- ・教育委員会生涯学習課の放課後子ども教室の補助金をもらっていた。
- ・イベントを課外授業という名目で、小中学生を対象に技術工作、理科実験や法政大学の学生とまちづくりデザイン、夏休みに他の中学校と協働でカヌー製作を行う等をした。

### ○行政とのかかわり

- ・補助金を受けていた。（2年間）
- ・生涯学習課からコーディネーターを派遣してもらった。
- ・活動場所の提供。（小金井市立第一中学校図書室・地域活動室）

### ○協働が上手く進まなかったこと

- ・補助金が謝金としてしか使えなかったこと。
- ・申請等のペーパーワークが面倒。

### ○活動のおいての問題や課題など

- ・会のメンバーが減ってしまい、活動自体が右肩下がりであること。
- ・学校側の理解が得にくい。教員に学習のことを話すと関係がギクシャクしてしまうこともある。
- ・「地域に開かれた学校」を標榜しつつも、実際には地域のことに学校が疎い。
- ・教育に関して積極的な親が、学校にとっては面倒な存在になってしまうことも多い。
- ・関心のあった保護者も、自分の子どもが卒業してしまうと関わりなくなってしまう。
- ・現在中学生の子どもをもつ親が、メンバーにいないこと。

### ○今後の市行政に望むこと

- ・金銭的な援助ではなく、会の活動の意義づけや、第三者としての意見、提案を出してほしい。
- ・各情報の仲介役。

### ○その他

- ・教育に関心がある人は多いが組織化されていないため、意思があってもなかなか行動に移せてはいない。
- ・学校が現在教えていることは大切なことであるが、これからは地域の人々がもっているさまざまな知恵なども教えていくことが必要ではないか。

### (3) NPO法人 地域の寄り合い所 また明日

- ・日 時：2009年12月4日（金）10時～11時
- ・場 所：地域の寄り合い所 また明日
- ・出 席：代表理事 森田真希さん
- ・聞き手：五島、挽野（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

#### ○これまでの協働における達成状況

- ・おおむね達成されている。
- ・市のNPO法人等への対応も時間を経て少しずつ馴れてきたのではないかと。

#### ○協働、連携を進めていくために必要なこと

- ・行政職員・市民側と、その立ち位置に線引きしてしまうのではなく、市をより良くしていこうという意識を共有する人と人の連続的なつながりを、維持・発展していくことが必要。

#### ○開かれた施設が地域社会の支え合いに寄与している

- ・福祉施設は、その専門性ゆえに一般市民の出入りや利用が希薄になりがち。地域に開かれた施設にすることで、専門的なケアが必要な方々と一般市民とが、互いに地域社会の一員同士として交流できることは、地域社会を構成する上で不可欠な「支え合い」への気づきの場へとつながっていく。

#### ○行政に求めること

- ・子どもも高齢者も様々なケースの人があり、市から対応要請がくる場合もある。困難ケースほど、行政と民間の協働による支援が必要なのではないかと。その為には、コスト削減を狙った民間への丸投げ状態のような姿勢ではなく、逆に大胆な予算配分が必要不可欠。また、行政内部での横断的な情報の共有化と民間への積極的な情報公開も重要。

#### ○市民側の課題

- ・協働への意識が低いと、当然良い方向に動かない。行政に対して納税者の立場からサービスを一方的に求めるのではなく、地域社会を共に支える一員同士として、行政への各地域に関する情報提供や建設的な提案を行う姿勢が必要。

#### ○その他

- ・法人の名前は、心の居場所を求め内向きになりがちの方々に「また明日も頑張ろう！」と前向きな余裕を感じていただき、今度はその方々自身が他社を元気づけられる存在になって頂きたいという理念が込められている。
- ・結局「人」、そして人と人のつながり。
- ・「また明日」には、介護が必要なお年寄りや乳幼児ばかりではなく、近所のおばさんや小・中学生等の自由な出入りがある。「また明日」での自然な交流が、それぞれの方々にとっての「支え合い」への気づきの場となっていると自負している。

#### (4) 翁味会

- ・日 時：2010年1月21日（木）11時30分～12時30分
- ・場 所：本町暫定庁舎
- ・出 席：会長 小川さん、小林さん
- ・聞き手：五島、大久保、挽野（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

#### ○翁味会について

- ・社会福祉協議会主催「男性の料理教室」参加者OB達が立ち上げた。
- ・会員が65名いるため、3グループに別れて活動している。
- ・料理することもさることながら、仲間と会うこと、高齢者が社会的に孤独にならないことが大切だと思っている。うまいものが食べたいからこの会に入ったと言う人もいる。
- ・年に4回のバス旅行を行っている。会員が全員男性のため男子校のようなノリ、雰囲気のある会になっている。過去や職歴などを忘れて参加でき、お互い前職について聞いたりしないように努めている。
- ・講師への依存度が高いので、会員のみでの活動の維持、継続は難しい。

#### ○行政との協働について

- ・社会福祉協議会は行政ではないが、会との関係という意味では十分協働していると言える。しかし実際にはお手伝いのような位置付けで、社会福祉協議会主催「男性の料理教室」でのお手伝いと、年2回の「働く仲間の会食会」では講師の指導のもと調理部門を担当している。
- ・福祉会館まつりに参加している。
- ・以前、共同作業所の昼食づくりを行なったことがあったが、利用者の人数が減少してきて趣旨に合わなくなったため、中止した経緯がある。
- ・料理教室の広報は社会福祉協議会が行っている。

#### ○今後の協働について

- ・料理そのもののスキルを身につけているわけではなく、また資格等もないため、他団体との連携や協働は難しい。
- ・行政側にとっても、団塊世代の退職後の居場所確保は必要とされていると思う。その意味で当会は一時的な受け皿として対応できると思う。

#### (5) NPO法人 黄金井倶楽部

- ・日 時：2009年12月18日（金）14時～15時
- ・場 所：上水公園運動施設管理棟
- ・出 席：事務局長 岡本大作さん
- ・聞き手：五島、挽野、大久保（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

#### ○団体の生い立ち

- ・平成16年、文科省の施策で、日本体育協会から「総合型地域スポーツクラブ」の育成支援を市内3団体とともに受ける。2年間の期間終了にともない支援がなくなった為、市へ協働支援の声をかけた。市からの要望で、平成18年に3団体が合体し「黄金井倶楽部」として設立、同時にNPO法人の資格を取得した。

#### ○主な事業

- ・総合型地域スポーツクラブとして生涯スポーツ（社会体育）や文化活動を通して地域の人たちのふれあいの場をつくること。体育協会、体育指導委員協議会と共に行政の社会体育事業に協力する。
- ・卓球、スポーツ吹矢、フラダンス、ヨガ、エアロビ、ハイキング、親子体操などの各教室。
- ・体育の日スポーツイベント、駅伝大会、ティーボール大会、輪投げ大会などのイベント開催。そのうち、エアロビ教室、体育の日イベント、駅伝大会が行政の支援（委託）事業。また、輪投げ大会が悠友クラブとの協働事業で3年間「さくらファンド」の支援を受けた。

#### ○これまでの協働における達成状況

- ・委託金、助成金など資金面での協働のため、資金を受けている事業、イベントが問題なく実施されれば目的は達成されていると考えている。継続性のある大会は委託・補助・助成金など行政からの予算がつかないと大きい事業は難しい。

#### ○協働して良かったこと

- ・資金支援をしてもらっている。
- ・施設使用、使用料など公益事業として優先、優遇措置をしてくれる。
- ・事業の後援が得られ、市報・掲示板などの広報が容易になる。

#### ○現在の協働における問題点、行政の対応。

- ・行政予算は単年度で、毎年実施する事業でも内容等が変われば資金が打ち切りになったりするので継続性が読めない。大会は委託、助成金で成り立っているので、中止になる度に別の資金を探す必要があり、予算などが変わると参加者の費用負担（参加費）などに影響がでてしまう。
- ・市の予算の付け方、特に購入物の規制がよくわからない。余りを出すと返金手続きが面倒。
- ・職員によって積極性に大きく差があり、熱心な担当者だとよい取り組みになる。
- ・総合体育館や栗山公園の利用施設が指定管理になって、教室等の今後の事業継続が心配。

### ○今後の活動において市行政に望むこと

- ・学校の空き教室等、施設の確保、提供をしてほしい。活動場所が他団体と取り合いになる。
- ・大きい大会時の人手の確保。今回、駅伝大会では警備を消防団にお願いしたが継続していただけるとありがたい。
- ・施設等のチラシ設置の規制を見直し、もう少し自由に置けるようにしてほしい。例えば市報に載っている事業など。公民館は比較的自由である。

### ○協働支援センターへの期待

- ・団体の活動や内容を紹介した冊子を作るなど、一般の市民がもっと情報を得られる方法を検討してほしい。

### ○その他

- ・スポーツだけでなく文化的活動もできるだけ行いたい。
- ・他団体との協働でのイベント等も増やしたい。今は悠友クラブと輪投げ大会をやっている。
- ・駅伝大会は商店会や企業などの後援が欲しい。

### (6) NPO法人 遊び・文化NPO 小金井こども劇場

- ・日 時：2009年12月25日（金）13時～14時
- ・場 所：遊び・文化NPO小金井こども劇場事務所内
- ・出 席：代表 石井万里さん、事務局 水津由紀さん
- ・聞き手：五島、挽野、大久保（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

### ○団体の生い立ち

- ・親子で演劇鑑賞する会員制の会からNPO法人化。地域市民の立場に立って、地域の子ども達に文化芸術を提供するコーディネーターとして活動。

### ○主な活動・事業

- ・会員の子ども達と遊びイベントの継続。
- ・東京都子ども協議会に属し、文化芸術や劇場イベントの開催。
- ・文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業、小金井アートフル・アクション！実行委員会へ参加（2009年発足）、子ども文化コーディネーター養成講座の開催や講師手配など企画・プロデュース。
- ・市民参加の文化施設開設公演企画プロジェクトへの参加。

### ○これまでの協働についての達成状況

- ・実行委員会形式の事業は、条例などの大枠を行政側が準備し、テーマ、企画提案、実施などは市民主導で進められ、現時点では良い流れで協働できている。
- ・行政主催のワークショップから始まった事業は、役所側が行政の立場を崩さず、市民の目線というよりは、市民参加型の企画を広報するだけという感じで協働というイメージはない。

### ○協働してよかったこと

- ・自分達だけではどうすればよいのかわからなかったが、他団体とのつながりができた。
- ・チラシの配布などの広報が可能になり、活動に必要な情報を入手できる。
- ・文化芸術を市民に届けるコーディネートやプロデュースという当団体本来の目的を形にできていると思う。

### ○協働がうまく進んだ要因

- ・役所の担当者の方が、大変熱意がある人だった。

### ○現在の協働においての問題・不安点

- ・現在の企画が今後どうなっていくのか、行政側の見通しや考えが一緒にやっても見えない。
- ・1つの案件でいくつもの係を回り、何度も同じ説明を求められ、手間暇をかけなければ物事が進まない。職員の対応は多少良くなってきているとは思いますが、行政の横断的な連携は全くできていない。同じ課内でも情報の交換、共有がされていないので、各課にまたがる取り組みだと尚更やりにくい。
- ・協働、市民参加というのが建前だけにならないか心配。
- ・市民ホール運営を指定管理者制度にしたことで、単なる商業施設になってしまわないか不安がある。
- ・熱心なよい担当者が変わってしまうこと。

### ○今後の協働において市行政に望むこと

- ・文化に関しては窓口も含めて一本化し、部課内でも情報の交換、共有を図ってほしい。
- ・協働を進めるためには、ある程度行政側がイニシアティブをとることが必要だと思う。
- ・協働に関する情報はもっと広く発信してほしい。それぞれで活動している各団体には市報だけで機会を得ることは難しいと思う。
- ・役所担当者の熱意の有無に、信頼度も、協働がうまく進むかもかかっていると思う。職員には市に愛着がなくても市民との仕事として意識をきっちり持ってやってほしい。
- ・市民芸術文化については、コーディネートやプロデュースは行政だけではなく、市民を交えた組織との協働で進めて行くべき。資金面や大枠づくりを行政が担い、実質的な企画、運営は市民がかかわって時代と共に形骸化しない事業や企画を進めていかなければと思う。
- ・対策だけではなく本当に市民がかかわるシステムをつくってほしい。公募方法など、若者も参加しやすいようインターネットなどの利用を提言したが、いまだに取り入れられず時代に対応できていない。
- ・協働を進めて行くにあたり、最終的に市民のためのものになるように行政レベルで今後の道筋をつくっていく事も考えてほしい。

### ○協働支援センターへの期待

- ・助成金についての情報や申請に関してのノウハウを教えてほしい。
- ・チラシを置いてあるだけのセンターでは意味がない。広く認知され、情報を求めて市民が

- 訪れる、いろいろな情報ツールの場であり、市内の活動情報の集まる拠点であってほしい。
- ・かかわっている人達が実際に集まって情報交換のできるような場所。他団体の資料、情報が閲覧できるものがあると良い。

### ○その他

- ・市民ホールの運営主体に一員としてかかわり、ホールが市内の各地域とのアウトリーチ活動の拠点になるよう、市民団体の公演企画実施のプロデュースをしていきたい。
- ・市内で自主活動をする団体は多いが、各活動のつながりがあるイベントなどを手がける団体は少ない。文化、芸術に関して、若い世代に参加してもらえる団体として発展していきたい。

### (7) 小金井市環境市民会議

- ・日 時：2010年1月18日（金）16時30分～17時30分
- ・場 所：前原暫定集会施設
- ・出 席：代表 平井正風さん、藤崎正男さん
- ・聞き手：五島、挽野、大久保（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

### ○これまでの協働の達成状況

- ・環境基本計画に基づいた当初の設立コンセプトを、市民主導で一步ずつ着実に進められている認識はある。会員構成は学生も含めて広がりもあり、がんばっている。
- ・行政は非常に協力的ではあるが、市民の活動を「手伝う」という姿勢が見られる。行政にとっての協働、市民にとっての協働の認識にギャップを感じており、本来の協働ができていないとは考えていない。

### ○協働してよかったこと

- ・市、行政全般が身近になり、職員とのコミュニケーションも担当課だけでなく横つながりで広がっている。
- ・これまでの実績や継続に対し、予算確保など市も少しずつ柔軟になってきてはいると思う。

### ○協働がうまく進んでいる要因

- ・定期的に、職員と市民会議会員が環境に関して話し合い、情報交換する場を設けていることが相互理解につながっていると思う。

### ○現在の協働においての問題、課題

- ・本来の「協働」は行政と市民が力を合わせて進めるものだが、行政は「市民の手伝いをすることが協働である」との認識にすり替わってきているようにも見受けられる。
- ・協力的ではあるが、市職員が自分達で考える事は仕事ではないと思っているところがあり行政側からの企画、提案は、ほとんどなく、積極的ではない。
- ・これからも話し合いを重ね、行政と市民との意識、認識を確認、共有していく必要がある。具体的に腹を割って話しができる場を設けることも必要である。

### ○今後の協働において市行政に望むこと

- ・行政の積極性。職員が「まちをつくっていく」仕事のプロとして意識を持ち、まちづくりを考える時間と能力をちゃんと使ってほしい。その上で、行政でなければならないこと、市民にしかできないこと、両者をうまく融合させた協働について考えるべきである。
- ・コンサルタントに頼りすぎてきたと思う。市として市民パワーをどう乗せていくか、どう協働していくか、もっと自分達の頭を使って見せてほしい。
- ・いろいろな形の協働があるはずだが、目的に向かってお互いの役割を認識した上で協力していくということを、最初に話し合い、約束するところから始めなければ協働はできない。
- ・人事異動の際に、当初の姿で協働が進んでいくような業務の引継ぎのシステムを、行政の中でつくること。担当者が替わるたびに方針が変わるような現状は見直さなければならない。

### ○協働支援センターへの期待

- ・市民が入りやすい場としてセンターを設けるという発想は良いと思う。
- ・市行政は全般的にPRが下手。上手くいっている協働事業などはしっかりアピールしてほしい。
- ・協働に際して、センターが市民側の情報と提案を整理し、いかに正確に行政の複数部署へ伝達、指示することができるかが重要である。市長あるいは副市長の直轄組織にするなど、庁内の調整機能と強制能力を持つセンターでなければ意味がない。
- ・今回のアンケート調査後の報告を、協働支援センター準備室で市民に向けて公開することを強く求める。市民の求める協働を調査したものなら、その目的と結果、センターと行政の今後に対する姿勢を市民に対して報告すべきである。

### (8) 小金井市青年会議所

- ・日 時：2010年1月21日（木）10時～11時
- ・場 所：本町暫定庁舎
- ・出 席：副理事長 町田裕紀さん
- ・聞き手：五島、挽野、大久保（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

### ○これまでの協働の達成状況

- ・行政頼りではなく当団体の目的の中で市とかかわっていく。良い距離感を保ちながら行事等を行えている。

### ○協働してよかったこと

- ・熱意のある若い市職員が多く、自分達の活動にとっても協力をいただいている。
- ・補助金、事業費を充ててもらっている。
- ・行政の後援がつくことで市民へのPR力が高まる。
- ・市民討議会で、市民の声に民間の力で応えるイベント開催ができた。

### ○協働がうまく進んでいる要因

- ・市長に例会やその他の当団体の催しに参加いただいて、行政とのコミュニケーションができており、当団体の事業に関して理解を示していただいている。
- ・団体が歴史も実績もあるため、市からの信頼度が高い。当団体だけではできない事を市と組んで行なうが、市もパートナーは選ぶ。団体の信用の有無は大きいと思う。

### ○現在の協働における課題、問題

- ・縦割りの弊害を感じる。行政の課をまたいでの行事などが上手く進まないことがある。

### ○今後の協働において市行政に望むこと

- ・金銭的なサポート。事業費の予算措置をして、申請・審査で予算がすぐにとれるような補助金制度を作ってほしい。
- ・動員力のない市民団体へのイベントに人材を出せると良いと思う。
- ・新しいものをなかなか受け入れない市の体質がある。地域のネットワークの広がりも必要団体同士の情報交換の場があるといろいろな団体とのつながり、交流につながると思う。

### ○協働支援センターへの期待

- ・広報面への支援、協力。
- ・他団体との連携、人をつなげる情報や紹介。

### ○その他

- ・自助が原則。行政が肥大化しているように感じるが、本来は行政頼みではなく地域コミュニティの強化が必要。民間の力をつなげて後押しするような行政の役割、行動が必要だと思う。

### (9) 本町五丁目第3町会

- ・日 時：2010年1月18日（金）14時～15時
- ・場 所：福祉会館4階 家事実習室
- ・出 席：会長 渡邊一弘さん
- ・聞き手：五島、大久保、挽野（NPO法人ひ・ろ・こらぼ）

### ○小金井ボランティア市民活動センター運営委員会とのかかわり

- ・小金井ボランティア市民活動センターあり方検討委員会に参加し、ルーテル学院大学、武蔵野市のファシリテーター養成の研修会にも参加した。
- ・以前のボランティアセンターは十分な情報発信ができておらず、学識経験者を交えて方向付けを行ない、現在は非常にうまく発信ができていていると思う。しかし以前からボランティアセンターにかかわってきた活動員の中には変化を望まず、前のままでも良いとする人もいる。

### ○町会の現状について

- ・町会の会員は 630 世帯。会合などの役員の出席は非常によく、町会で旅行、新年会、子ども会支援、清掃活動を行っている。地域とのつながりを大切にしている。近年は定年後の方々が積極的に参加している。
- ・平成 21 年に自主消防組織が発足した。消防団 OB が積極的にかかわっている。
- ・町会の結束力の向上のため、市役所、警察署、消防署、社会福祉協議会等の市民事業に参加している。

### ○これまでの協働について

- ・当会の提案のもと、ボランティアセンターと協働で、「防災まちあるき」を行っている。
- ・「防災まちあるき」は回を重ねており、一昨年は警察署と消防署、去年は子ども会と行った。2 年とも違うメンバーだったので同じメンバーで行なうより良かった。今年は悠々クラブ（本町長生会）と行う予定。
- ・警察からの要望で空き巣研修会を行っており、また消防からの要請で災害時に備えて勉強会も行っている。

### ○協働がうまく進んだと思う要因はなにか

- ・消防署、市の消防課の職員が「まちあるき」に積極的に関わってくれていたこと。

### ○協働がうまく進まなかった要因について

- ・小金井ボランティア市民活動センター運営委員会で団塊世代への参加を呼びかけたことがあるが、うまくいかなかった。定年後も元気なので働きたいと仕事を選ぶ人が多かった。今後は 70 歳以上の方を対象に魅力ある企画を協働で考える。

### ○今後活動を継続する上で、市行政に望むことはありますか。

- ・新しい提案などを嫌わず（予算がない、前例がない等）、より積極的にかかわってほしい。（例：新春凧揚げ大会の仕様を少し変更するだけで大変な時間を要した。）

### ○その他

- ・今後は小金井ボランティア市民活動センター運営委員会と NPO との関わりの中で町の活性化を図りたい。
- ・地域の安全・安心運動に積極的に取り組む。
- ・町会だよりに「協働」という言葉をできるだけ入れている。
- ・新しく入ってくる人に町会員がやることが多いというイメージを与えないため、なるべく会員に負担がかからないように心がけている。

(10) NPO法人 カッセKOGANEI (小金井市民起業サポートセンター)

- ・日 時：2010年1月22日(金) 13時30分～14時30分
- ・場 所：カッセKOGANEI 事務所
- ・出 席：代表理事 黒崎晋司さん、監事 馬場利明さん
- ・聞き手：五島、大久保、挽野 (NPO法人ひ・ろ・こらぼ)

○これまでの協働の達成状況

- ・市民団体、市内のNPO法人との協働については、今後、もっと連携を強めていきたい。
- ・市民起業の観点から市との協働は行っているが、さまざまな課との協働を目指したい。

○協働がうまくいった理由

- ・市との協力関係を築いたこと。
- ・スタッフや理事、監事ががんばったこと。

○現在の協働においての問題、課題

- ・市内の商店街や農業、工業等の地場産業にかかわる市民の起業チャンスをつくってきたい。
- ・理事等が個々人で持っているネットワーク等を活かすために、継続的に関われる事務局機能を強化することで、組織的な取組として反映できるようにしていく必要がある。
- ・行政のさまざまな課と連携できるようなアプローチ、市民団体との更なるネットワーク形成。

○今後の協働において、市行政へ望むこと

- ・現在の「協働指針」については、協働の中身の実体化に向けて、担保や手段等を制度的に保障することにより、実効性を確保することが大切であると考えている。
- ・全般的な話として、NPO法人への委託事業について、事業の直接経費だけでなく間接経費も含めて予算化されると、事業実施に伴う各団体の活動経費が捻出できるので、NPOは経営的に安定して事業に取り組めると思う。
- ・人事異動等によって市の職員が交代し、協働の理解度や姿勢に差がある場合、市民は戸惑ってしまうことが多いので、ワークショップ等で日常的に市民と接する機会を設けるとよいと思う。
- ・コスト削減の観点からの協働ではなく、地方自治の実体化の視点から協働が進むことを願っている。

○協働支援センターへの期待

- ・協働の意義や具体的な取り組みのPR。協働の効果等が実感できるようなアピールを期待する。
- ・協働に相応しい人材の配置。

○その他

- ・30～50代の男性が地元で起業できるような地域の環境づくりが必要。

- 行政だけでなく、市民にもテーマや世代ごとの縦割りの傾向があると感じている。団体同士、市民同士の横のつながりを広げることも大切だと思う。
- 行政のさまざまな課が関わるようなイベント等を市民から仕掛けていくなど、職員と市民との人的な交流や継続的な関係を構築していくきっかけづくりが必要だと思う。

## ■ 4 協働における現状と問題点

今後小金井市で協働の環境、関係を整えていくため、アンケート調査、ヒアリング調査の結果から問題点、課題等について整理する。

### 1) 現状、問題点について

アンケート調査の結果から、NPO法人、市民団体などが直面している問題と協働に対する意識などを整理する。

#### (1) 団体の活動や組織の状況について

- ①新たに設立された団体、組織が多いが、30年以上にわたって活動を続けてきた経験豊かな団体も相当数存在する。
- ②会員数、年間予算とも小規模な組織が多く、自主的、自発的に市民活動を続けている状況が伺える。
- ③活動のテーマ、対象は多岐にわたっており、多様な市民活動の状況がわかる。
- ④人材不足、活動場所、資機材の確保、これに伴う情報の受発信不足、活動資金の確保など、活動の継続そのものにかかわる問題点をあげる団体が多い。

#### (2) 行政との協働について

- ①協働という言葉については、「知らない」「よく知らない」が半数近くを占めており、言葉そのものも浸透しているとは言い難い。
- ②一方で6割近くの団体が行政との連携、協力による活動の経験を持っており、協働の醸成に対する基礎的な関係は整っていると言える。
- ③これまでの行政とのかかわりとしては、後援、補助金、活動協力が多くを占めている。また、その声かけは行政、市民団体双方からそれぞれ行われてきている。
- ④協働して良かったこととして、広報、PRへのサポート、金銭面の支援、活動場所や資機材等の確保、人的な連携、相互理解などがあげられており、相応のメリットが上がっている。
- ⑤協働の課題として、書類作成、手続きなどの手間、情報伝達の問題、市民団体と行政の意識、考え方のズレなどがあがっている。
- ⑥「協働」に対する要望は半数を超えており、ニーズは高く、かつその関係を維持していきたいという意向も感じられる。
- ⑦取り組みの内容、役割分担を明確にしながら、より対等な立場で意見を出し合い、協議していく環境、場づくりが求められている。また、決定、確定する前段階での話し合いの機会が少ないこともあげられている。

### (3) 市民団体との協働について

- ①行政以外の協働したい組織として、市民団体、教育機関、ボランティア・市民活動センターに多くの要望が集まっているが、その他の意見まで見ると様々な団体があげられており、活動の多様さが伺える。
- ②市民団体間の連携、横断的な情報の共有、人的ネットワークの形成にもニーズがあり、さらにその仲介、情報等のコーディネーションを求める声もある。

## 2) 問題点の整理

上記の現状、問題点から「協働」に対する問題を整理する。

### (1) 「協働」の意味、位置づけがいまだに不明確

- ①「協働」に対する意味、位置づけ、イメージなどが行政、市民相互だけでなく、市民間、個人でもことなり、いまだに曖昧、不明確である。イメージとして「互いに話しあい、知恵や力を出しあうことで波及効果を生み出す」ことはわかるが、現実の作業の中でどのように振る舞い、進めていけばよいのかが双方ともにわかっていない状況にある。結果的に行政の都合、方法を市民団体等に押しつける、あるいは「安上がりの下請け」としているとの批判もある。また、市民団体にも「行政は金を出してくれればよい」という意識がいまだにあるとの意見もある。
- ②市民、行政相互の考え方、取り組みや活動に対するスタンスなどを互いに理解、共有していく作業を続けていくことが必要である。その情報共有ための取り組み、機会の設定、課題を共有する場づくり、その間を取り持つつなぎ役、視野、考え方を広く持つコーディネーターの適切な配置など、多様な機会、場づくりが求められている。
- ③その対応策として、補助金の充実、広報や情報の受発信の拡充、情報・活動拠点の整備、設備・機材の提供などが求められているが、多様な市民活動に順応するような、特にソフト面の施策、支援体制が整っておらず、結果として協議、調整仕切れていない面も指摘されている。
- ④また、市民、市民団体側の課題として、自立した意識の醸成、運営基盤の強化、拡充、社会的なしくみづくりに向けて提案の検討、行政への提出などの意見がみられた。また、市民、市民団体が、相互に日常的につながっていこうとする能動的な行動、活動も必要との指摘もある。

---

---

平成 21 年度  
小金井市 市民協働推進支援調査  
報告書

小金井市市民部コミュニティ文化課  
小金井市前原町 3-33-27 前原暫定集会施設  
電話 : 042-387-9923  
メールアドレス : s030299@koganei-shi.jp

---

---